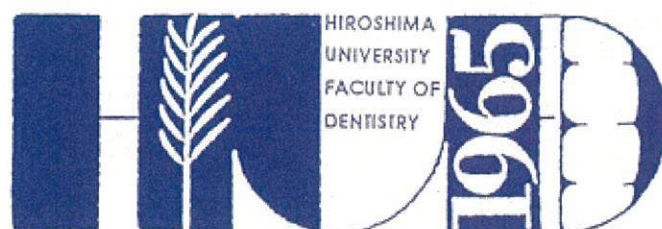


# 平成21年度自己点検・評価報告書



平成21年8月

広島大学歯学部評価委員会

## 目 次

I	広島大学歯学部の特徴と特色	.....	1
II	本学部の特徴と特色に関する取り組みの概要	.....	1
III	平成16－21年度の中期計画の目標の到達度及び課題		
	1. 教育に関する目標の到達度及び課題	.....	2
	2. 研究に関する目標の到達度及び課題	.....	4
	3. その他の目標の到達度及び課題	.....	6

## I 広島大学歯学部の特徴と特色

本学部は、歯学科と口腔健康科学科（旧口腔保健学科）で構成されており、歯科医療を担う全ての専門職（歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士）について学士を輩出できる我が国唯一の学部である。

歯学科は、我が国では初めてコース制教育（最先端歯学研究コースと臨床歯科医学コース）を導入して、多様でかつ質の高い歯科医療人、研究者、教育従事者の養成を目的としている。

口腔健康科学科の口腔保健衛生学専攻では、歯科衛生士の国家試験受験資格に加えて養護教諭1種免許の取得も可能である。口腔保健工学専攻は、歯科技工士養成校として我が国唯一の4年制教育機関であり、歯科技工士の国家試験受験資格の取得に加えて、細胞培養技術など生体工学やコンピュータ工学に関する幅広い教育を行っている。

また本学部は、大学院医歯薬学総合研究科（口腔健康科学専攻も含む）及び広島大学病院と密接に連携して教育と研究を行っている。

さらに本学部は、地域社会との交流（広島県歯科医師会と広島県技工士会及び広島大学歯学会の合同学術集会、市民、高校生及び小学生向けの公開講座の開催など）、国際交流（多数の国際学術交流、東南アジア及びロシアとの共同研究、広島カンファレンスの開催など）及び産学官連携（中国経済産業局の地域イノベーション研究、JSTの育成研究など）などにより社会に貢献している。

## II 本学部の特徴と特色に関する取り組みの概要

1. 2コース制の実施は、多様な人材（研究志向の受験生）の確保に役立っている。また学部学生による学会発表や教員の受賞など、研究活動にも好ましい影響を及ぼしている。
2. 口腔健康科学科で学士教育を実施し、平成21年3月に最初の入学生が卒業した。就職率は94%であり、また多くの学生が本年4月に設立された大学院医歯薬学総合研究科口腔健康科学専攻（修士課程）に進学した。
3. 再生医療に関する産学官連携研究

本学部から再生医療に関連した3つのベンチャー会社が設立された。また多くの大型外部資金を獲得して、再生医療の実現へ向けた研究が活発に行われている。歯周病に対する自家間葉系幹細胞移植治療は世界で初めて本学部で行われた。

### Ⅲ 平成16-21年度の中期計画の目標の到達度及び課題

#### 1. 教育に関する目標の到達度及び課題

##### (1) 教育の成果

###### 【評価できる点】

- 1) 歯学 CBT 試験及び歯学 OSCE で大多数 (95%以上) が基準の正解率以上の成績を得た。また少数の不合格者も再試とその後の短期間の指導により全員が進学できた。
- 2) 卒業生は歯科医師卒後研修におけるマッチングにおいて 100%希望の研修先に採用された。
- 3) 教養ゼミ及び最先端歯学研究コースでは、全面的にチュートリアル教育が行われている。
- 4) 口腔健康科学科にて多くの学生が養護教諭の必要単位を取得した。また平成 21 年度には、卒業生の希望者 3 名のうち 2 名が養護教諭として臨時採用された。
- 5) 全国初の口腔健康科学科 (学士課程) を設置して教育を実施した。そして全員が国家試験に合格して、94%の就職率と高い大学院進学率を示した。

###### 【課題, 改善/検討すべき点】

- 1) 歯科医師国家試験の合格率は、平成 16 年度は高かったものの、その後やや低下した。これは全国的に合格率が低下したことと関連しているが、対策が必要である。
- 2) 歯学科では 2 コース制教育を行っているので、大学院進学率を 30%まで上昇させることが望ましい。また 2 コース制教育の評価をカリキュラムを含めてさらに綿密に行う必要がある。
- 3) 専門コアカリキュラムへの PBL チュートリアル教育の導入は臨床科目では進んでいるが、基礎科目では進んでいない。一方、講義時間を減らすと学生の知識量が減ると指摘されている。

##### (2) 教育内容

###### 【評価できる点】

- 1) 歯学科で、最先端歯学研究コースを志望する学生数が増加した。
- 2) 新たな授業科目 (成人・高齢者歯科学, 障害者歯科学, 口腔インプラント学など) を開設した。また「専門英語」を受講する学生が増加した。

- 3) 国家試験対策の前倒し（6年の前期から）、国家試験対策の結果を卒業試験成績へ組み込むなど対策を充実させた。
- 4) 進級判定基準に GPA を導入して厳密にした。

**【課題、改善／検討すべき点】**

- 1) カリキュラムと単位認定方法を検討し、学力水準をさらに向上させることが望ましい。
- 2) 隣接医学科目の教育を改善する必要がある。他科への紹介状がかけるようにする。歯科と各隣接医学科目との接点に焦点をあてた講義をすることが望ましい。
- 3) 最先端歯学研究コースの修了の前に、全員による発表会を開催することが必要である。また臨床歯科医学コースでもより厳格に単位認定をすることが望ましい。
- 4) 歯学科と口腔健康科学科の合同講義を増やすことが望ましい。
- 5) 臨床実習で「診療参加型」教育を強化することが望ましい。

**(3) 教育の実施体制**

**【評価できる点】**

- 1) 多様な入試（一般入試の前期と後期，AO 入試，学士編入学入試）を行い，多様な人材を確保している。
- 2) 入試制度（配点，面接導入）を改革した。
- 3) アドミッションポリシーを明確化した。
- 4) 学士編入時期を変更してカリキュラムの歪みが減少した。
- 5) 毎年，FD を開催している。
- 6) 実習室と講義室の設備を充実させ，自習室，セミナー室，チュートリアル室を新設した。

**【課題、改善／検討すべき点】**

- 1) アドミッションポリシーを受験生（高校生）にわかりやすい文章にする。
- 2) 2コース制，コアカリキュラム，編入生教育を並行して行うことによるカリキュラムの歪みを改善する。
- 3) 知識を増やす講義と PBL チュートリアル教育での知識活用型教育のバランスを工夫する。
- 4) 口腔健康科学科の臨床実習のための口腔健康管理室，顎口腔機能管理室を，広島大学病院と相談して，設置することが望ましい。

- 5) 歯学部独自の学生による授業評価は実習だけに限られている。
- 6) 教員の教育評価の結果は、人事評価に反映されていない。
- 7) 助教が講義を最初に担当する前に、講義方法に関するFDがある方が良い。  
またFDはレクチャー型より能力アップのための実質的なものが望まれる。
- 8) 教育プログラム担当教員会は、口腔健康科学科では機能しているが、歯学科では活動していない。
- 9) 養護教諭教育を充実させるために、養護教諭として実務経験のある職員の採用を今後も継続すべきである。

#### **(4) 学生支援**

##### **【評価できる点】**

- 1) 学生教員懇談会を年に2回開催して、学生の要望の多くを実現した。
- 2) オフィスアワー制度を設けた。またチューター制度を運営している。
- 3) 歯学部キャリアサポート室を設置して国家試験対策や卒後進路支援を行っている。

##### **【課題、改善／検討すべき点】**

- 1) 学部教育に対するTA、RA、メンターの採用は不十分である。
- 2) 「広島大学奨学金」は歯学部には適用されていない。
- 3) 「歯学部国際交流クラブ」はできたが、「地域交流室」、「学生ボランティアセンター」、「キャリアセンター」(研修医の就職、進学サポート)は霞地区では設置できていない。

## **2. 研究に関する目標の到達度及び課題**

### **(1) 研究水準及び研究の成果**

#### **【評価できる点】**

- 1) 研究科とともに全学業績評価システムを利用し、業績評価を一部執り行なったことから、現時点での学部評価システムの構築は到達された。
- 2) 大学院医歯薬学総合研究科との有機的な連携強化を目指して、医学・歯学分野を越えた研究目的に基づいた研究室の再配備を行った。また共用スペースを設けて、研究分野間の交流連携を進展させた。
- 3) 次世代医科学開拓型や先進医療推進型の複数(9個)のプロジェクトを立ち上げるとともに、セルプロセッシング・センターが新設されている。さらに研究科でのバイオデンティスト研究推進のプロジェクト研究室とも連

携している。

- 4) 口腔健康科学専攻（修士課程）を設置し、口腔健康科学科の研究室を整備したことから、教育研究基盤は確立された。
- 5) 大学として重点的に取り組む領域として、「口腔から QOL 向上を目指す連携研究」（再生工学）の代表連携校として特色ある研究拠点が形成されている。
- 6) 研究業績も歯学として特色あるものが数多くでている。

**【課題、改善／検討すべき点】**

- 1) 医歯学の研究棟間の渡り廊下の設置を目指しているが、実現に向けて更なる努力が必要である。
- 2) 教育研究支援事務グループを設け、支援の目標は達成したが、更なる充実が望ましい。
- 3) 口腔健康科学専攻博士課程の設置に向けて更なる教育研究基盤の整備が求められる。
- 4) 教員の負担が少ない評価に関するデータ収集システムの確立が望まれる。

**(2) 研究実施体制などの整備**

**【評価できる点】**

- 1) 自然科学研究支援開発センターの生命科学研究支援分野やライフサイエンス教育研究支援部の活用が進んでいる。
- 2) 外部資金獲得に関して、目標の達成はなされている。
- 3) 研究の整備に関する具体的方策として、材料一括購入の推進、及び中央研究室の整備や IT 設備化が進んでいる。
- 4) 知的財産の創出・取得・管理及び活用の具体的な方策として、10 本以上の特許申請と産学連携共同研究の利用としての 3 企業の設立実績から、目標を到達している。さらに医療ベンチャーコンソーシアムの活動を促進している。
- 5) 教授・准教授の公募制を教員選考で実施している。

**【課題、改善／検討すべき点】**

- 1) 研究に必要な整備を更に進めることが必要である。中央研究室をキャンパス内で有効活用するための検討が必要である。
- 2) 9 個のプロジェクト型研究を推進しているが、人的配置などに関する効率化は更なるものが求められる。特に優れた業績の教員の人的・財政的支援システムを構築するために、プロジェクト型のシステムで人的な支援を行って

- いるが、財政的並びにその規模などに関しては更なる充実化が必要である。
- 3) 知的財産取得を促進するためには、特許申請のための資金援助・企業連携を推進支援するためのシステム構築が求められる。
  - 4) 研究活動の評価及び評価結果を質の向上につなげるための具体的方策として、全学的な評価基準や研究科での評価基準とともに、歯学部の評価委員会や人事交流委員会での独自の基準が必要であるかは今後の検討が必要である。
  - 5) 融合型総合研究棟などのキャンパス全体の将来構想の検討と推進が求められる。
  - 6) 教員の公募を、助教にも適用することを検討するべきである。

### 3. その他の目標の到達度及び課題

#### (1) 社会との連携・国際交流

##### 【評価できる点】

- 1) 留学生交流に関しては、台湾やタイの大学から定期的に学生を受け入れて成果は上がっている。
- 2) 学生の英語能力の向上に関しては、TOIEC 受験、バイオデンティストリー育成プログラムでの英会話、英語プレゼンテーションのトレーニングなどが進んでおり、これらは3回にわたる広島カンファレンス国際会議での学生の発表に役立っている。
- 3) 学部ホームページの英語化や歯学部紹介リーフレットの英語化などを進めている。
- 4) 海外協定校は年々増加して24校を数え、本年開催予定の第3回広島カンファレンスでは20校の代表を招致して学術交流を進める準備がなされている。
- 5) アジアを中心とする保健・医療・福祉の推進では、ベトナム、カンボジア、カザフスタンでの医療協力が特筆される。
- 6) ツイニングプログラムでは7名の学生を受け入れ、インドネシア・エアランガ大学、ベトナム・ホーチミン医科薬科大学、マレーシア・マラヤ大学との交流が進められている。
- 7) 歯学部学生の海外交流では、歯学部学生国際交流支援金制度を創設して、本年度から歯学部学生を海外に派遣している。
- 8) 口腔健康科学科では、ホームページを英語化している。



### 【課題、改善／検討すべき点】

- 1) 国際部霞センターの設置については、早急な対応を促したい。
- 2) 国際共同研究のさらなる推進とその成果をアジアへフィードバックすることが望まれる。

## (2) 業務運営の改善と効率化

### 【評価できる点】

- 1) 学部長を補佐するため、教育担当（教員）と管理全般担当（事務員）の2名の副学部長と、社会連携担当及び国際交流担当の学部長補佐をそれぞれ各1名を配置している。
- 2) 7名で構成される歯学部長室会議（歯学部長、副歯学部長2名、歯学科長、口腔健康科学科長、学部長補佐2名）を設置し、毎週1回の同会議を開催することで企画・立案、遂行の機動性を高め、より効果的な運営体制を構築している。
- 3) 教職員一体となった運営・執行・評価のため、事務員代表として室長を副学部長として配置し、また教職員連絡会議を年2回開催して、情報を共有することで運営上の問題点を整理している。
- 4) 地域社会と密着した連携（高校生公開講座やデンタルキッズプログラムなどは盛んに行われている。とりわけデンタルキッズプログラムは毎年20～30名の受講があり、「楽しかった」「歯のことに興味がわいた」「優しい歯科医になりたい」などの感想が寄せられている。また地域歯科医師会との交流も順調で、年1回、広島大学歯学会と広島県歯科医師会が合同で学術大会を開催している。

### 【課題、改善／検討すべき点】

- 1) 教職員連絡会議の実効性は十分とは言えない
- 2) 効率的で機動的な管理運営の反面、教職員が一体となって取り組むモチベーションをさらに高めるべきである。